



ナシ特報

No. 1

令和3年3月
J A中野市営農センター
J A中野市ナシ部会

生育の進みは、平年よりも早まる見込みです。降雪はあるものの2月平均気温が高く推移しているため消雪が早く、このままいけば開花は昨年よりも5日程早まる見込みです。また、生育の進みが早まるほど凍霜害遭遇の危険性が高まります。南水では、結実確保に向け剪定・花芽整理などの管理作業終了後、凍霜害対策の準備をお願い致します。

開花予想は、平年より5日程早く南水、ラ・フランスで4/20前後になる見込みです。

■ 南水発芽調査（調査地点：田麦沖）

年度	平年	R1	R2	R3
発芽期	4/7	4/7	3/30	4/1頃

【西洋梨の休眠期防除は次面をご覧ください】

■ 和梨 発芽前の散布（石灰硫黄合剤・キノンドーの2体系を記載しています。下記を読み、どちらかを選択してください。）

～キノンドー体系～

散布時期：発芽直前（3月中下旬）

散布薬剤： 水 98リットル
キノンドー顆粒水和剤 100g
スプレーオイル 2リットル

対象病害虫：黒斑病、輪紋病、カイガラムシ類

散布量：10a 当り 300リットル

■ キノンドー顆粒水和剤体系注意事項

- ① 混用順：水→キノンドー顆粒水和剤→スプレーオイル
- ② キノンドー顆粒水和剤に代えてキノンドーフロアブル1000倍（3日前、9回）でもよい。
- ③ カイガラムシ類対策：散布前に金ブラシ等で削り落しを行う。
- ④ 胴枯対策：せん定の切り口（傷跡）には必ずトップジンMペーストを塗る。

散布日： 月 日
散布量 リットル

～石灰硫黄合剤体系～

散布時期：発芽直前（3月中下旬）

散布薬剤： 水 88リットル
スプレーオイル 2リットル
石灰硫黄合剤 10リットル

対象病害虫：ハダニ類、カイガラムシ類

散布量：10a 当り 300リットル

■ 石灰硫黄合剤体系注意事項

- ① 混用順：水→スプレーオイル→石灰硫黄合剤
- ② カイガラムシ類対策：散布前に金ブラシ等で削り落しを行う。
- ③ 胴枯対策：せん定の切り口（傷跡）には必ずトップジンMペーストを塗る。
- ④ 注意：石灰硫黄合剤は隣接するハウスビニールには極力かからないようにする。

散布日： 月 日
散布量 リットル



発芽期
樹全体で結果枝の約
～30%の花芽の蕾が
開け、蕾が認めら
れた日。

■ 和梨 発芽7日後の散布（りん片脱落直前）

散布時期：りん片脱落直前（4/10頃）

散布薬剤：水 96.7リットル
ic ボルドー48Q 3.3kg

対象病害虫：黒星病

散布量：10a 当り 300リットル

■ 注意事項

- ① 収穫中の作物への飛散に充分注意する。
- ② 散布時期が遅れた場合や散布直後に降雨があると薬害を生じることがあるので注意する。

散布日： 月 日
散布量 リットル



りん片脱落期
樹全体で結果枝の花
芽のりん片が約～30%
当脱落した日。

西洋梨

■ ラ・フランス発芽調査（調査地点：田麦沖）

年 度	平年	R1	R2	R3
発 芽	4/6	4/7	3/30	4/1 頃

■ 西洋梨 発芽前の散布（トップジン・石灰硫黄合剤の 2 体系を記載しています。下記のいずれかを選択してください。）

～トップジン体系～

1. 散布時期：発芽前（3 月中下旬）

2. 散布薬剤：水

98 リットル

展着剤

10ml

トップジンM水和剤

100 g

スプレーオイル

2 リットル

3. 対象病害虫：ハダニ類、カイガラムシ類
腐らん病

4. 散布量：10a 当り 300 リットル

■ トップジン M 水和剤体系注意事項

① 混用順：水→展着剤→トップジン M 水和剤→スプレーオイル

② カイガラムシ類対策：散布前に金ブラシ等で削り落としを行う。

散布日： 月 日

散布量： リットル

～石灰硫黄合剤 体系～

1. 散布時期：発芽前（3 月中下旬）

2. 散布薬剤：水

88 リットル

スプレーオイル

2 リットル

石灰硫黄合剤

10 リットル

3. 対象病害虫：ハダニ類、カイガラムシ類
腐らん病

4. 散布量：10a 当り 300 リットル

■ 石灰硫黄合剤体系注意事項

① 混用順：水→スプレーオイル→石灰硫黄合剤

② カイガラムシ類対策：散布前に金ブラシ等で削り落としを行う。

③ 注意：石灰硫黄合剤は隣接するハウスビニールには極力かからないようにする。

散布日： 月 日

散布量： リットル

■ ナシ類 3 月の重点管理作業

1. 腐らん病・凍害対策
- 腐らん病が 1 月から発生確認。病斑を見つけ次第、削り取りや被害枝の除去を行って下さい。また、凍害（胴枯病・紫変色枝枯症他）防止のため、主幹部等にできた大きな切り口（直径 5 cm 以上）には必ず癒合剤を塗布ください。3 月の低温遭遇により凍害の発生が助長される傾向です。注意してください。
2. 粗皮けずり
- 輪紋病の源となるいぼ皮や粗皮（リンゴハダニ等の住処）を削り取る等の耕種的防除を実施してください。輪紋病多発園では本格的な生育期に入る前の早い時期にいぼ皮削りを進めてください。
3. 花芽整理（南水の芽すぐり）
- 南水では、貧弱（小さい、二次伸長）な花芽が散見されます。剪定作業と並行して、花芽整理を積極的に行い制限された花芽に養分を集中させる。1 短果枝群につき 2 芽程度に整理し、芽の向きはなるべく外に広げるようにしてください。
4. 枝の誘引
- 次年度の花芽形成促進や側枝の強樹勢化を防止するために、剪定作業と並行して誘引作業の必ず実施してください。樹が硬く折れやすい品種は、発芽期以降実施してください。
5. 春先の苗木の植え付け ※注意
- 土壌が乾燥する春先の苗木植え付け時は、根と土が十分馴染むようにかん水してください。併せて、敷きワラマルチ等をするとその後の乾燥防止に役立ちます。また、支柱等を立てて風等による倒伏を予防してください。